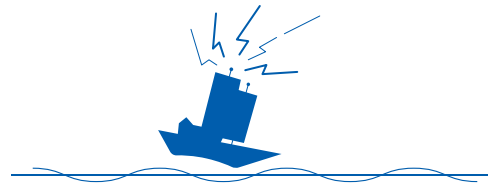


“Let's move forward.”

海龍王寺のこれから



KAIRYUOUJI

2021年7月1日

真言律宗海龍王寺

海龍王寺のブランド(あり方)について

この度、新型コロナウイルスの影響で世情が一変したこと、私が住職に就任して30年を迎えたこともあり、これからの海龍王寺のあり方や進め方、私の宗教者としてのあり方や考え方を、一度オーバーホールする時期に来ていると思いました。

また、海龍王寺という寺院、仏像・建造物・宝物等、各々がブランド要素(ブランドエレメント)ではございますが、**これらのあり方を整えたうえでブランドを見つめなおした結果「Let's move forward.」のブランドメッセージとともに進んでゆくことにいたしました。**

今後はお寺で実施するすべてのことは、このメッセージを軸として、統一感を持たせたいと考えております。

これまで当寺は、ブランド要素(ブランドエレメント)や関連人物を前面に出し、これらをお伝えすることでお寺のことを知っていただく、あるいはお寺に来ていただくことを活動の中心に据えてまいりました。

今までこの活動が順調に運んできたことから大きな見直し等を行いませんでしたが、新型コロナウイルス禍に見舞われたことで、お寺や宗教者の存在の意味が問われていると感じました。

このため、一度そこから離れ、**現在お寺に備わっているものを包括して「ひとつのブランド」と位置づけ「お寺の本質を鮮明化」することに思いが至りました。**

ブランドを定めると、それに縛られてしまうこともあります。しかし同時に、迷った時、常に原点に立ち返って、判断することにもつながります。

過去イベントや催しを行った際は、そこに関わる方々の主観が入り交じり、本来の意義が見えづらくなることもありました。今後、そのようになった時、ブランドメッセージがあれば「これに則った形で進めてください」と伝えることもできます。

明確な指針は、世の中の流れや先行きが不安定になった時に重要性を増しますが、このことはお寺のイメージを守ることにともつながると考えています。

「Let's move forward.」について

「Let's move forward.」には、「共に前へ」「一緒に踏み出す」というメッセージを込めました。これは、当寺初代住職玄昉が、聖武天皇・光明皇后と、仏教によって国を安寧に導くため「一緒に踏み出した」ことにちなみます。

また後年、渡唐に際して当寺で無事を祈り、千日参籠して般若心経を千卷写された弘法大師空海の信仰である「同行二人」とも結びつき、鎌倉時代に真言律宗を興すとともに、海龍王寺を中興し、民衆の救済に尽力された興正菩薩叡尊の思いともつながっています。

新型コロナウイルス禍に見舞われた現在、物事の見方、意識が変わり、新たな生活様式への対応を余儀なくされています。

当寺に関わりのある先人たちの思いを鑑み、様々な変化に戸惑いや悩みを抱えた方々、新たなチャレンジを踏み出そうとする方々に寄り添い、心を支え、共に前へ進むお寺でありたいと願っています。

*Let's move
forward.*

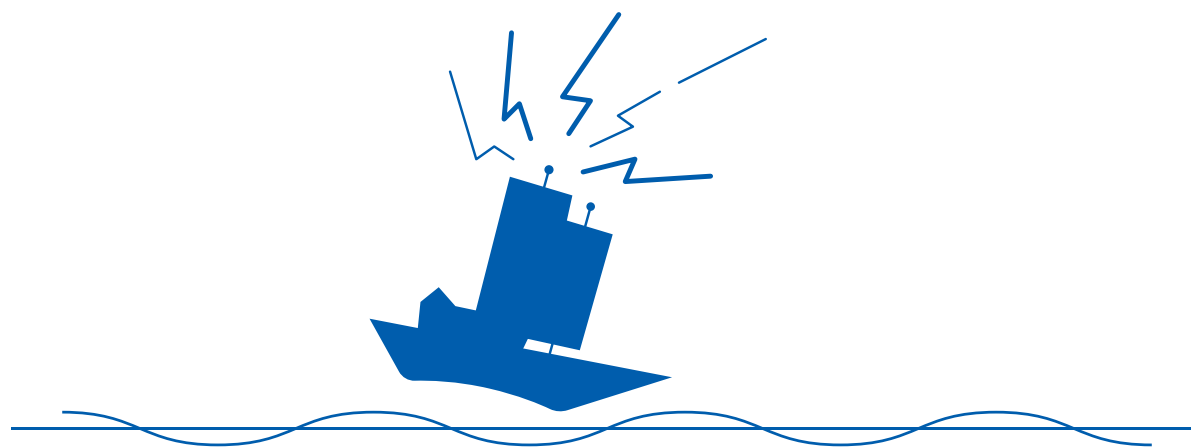


大陸の新しい情報を我が国に伝えるため、波高い東シナ海を進む遣唐使船を描いています。船の上の電波の模様は、奈良時代、遣唐使と遣唐使船が担っていた、情報収集と情報発信の役割を表しています。また現在も我々に影響を与え続けることで、自らの存在を発信し続けている遣唐使たちの存在も表しています。

五島列島から東シナ海へ出ると、航海の目標となる島は無く、強い波風もあって、渡唐は常に遭難の危険をともないました。

海龍王寺の初代住職となった玄昉は、遣唐使の任期を終えて帰国の折、東シナ海で暴風雨に襲われましたが、乗船に納められていた海龍王経を唱えることで帰国を果たすことができました。このことがきっかけで、唐に渡る人々の道中安全を祈る寺院となり、遣唐使の心身を支えました。

荒い大海のような今の世において、常に正しい情報を取り入れ、自らが進むべき道をしっかりと見定めて、荒波を乗り越えていただけるとの願いを込めています。



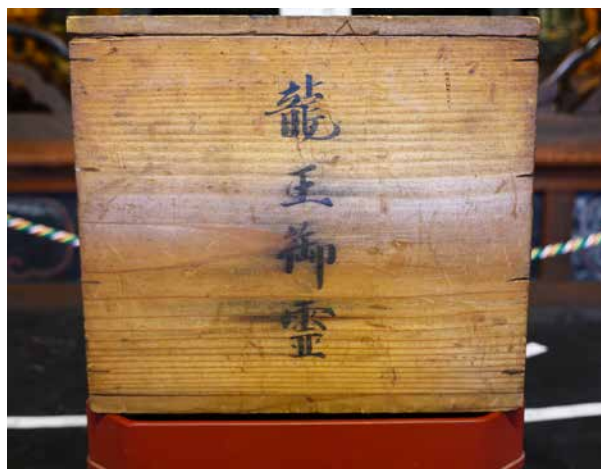
1300年続く龍王信仰

海龍王寺には、1300年前の奈良時代から「海龍王」が、まつられており、海龍王寺に継承されている「龍王御魂」は天保15年9月3日に祀りなおされたことがわかっています。

平成16年より毎年4月18日に「四海安穩祈願法要」を務めておりますが、史実に基づいた行事は参加の敷居を高くしてしまい、一般の方々が参加をためられる要因になっているのではないかと考えました。

このため、9月3日を海龍王の縁日として「龍王祭」を執行することで、行事の参加への敷居を低くし、より多くの方々に龍王のご利益と加護を受けていただきたく思います。

また、この日は当日限定の御朱印を授与いたします。



つながる印 (アンテナ)

皆さまに御本尊の十一面観音菩薩様とつながっていただくため、授与品として「根付」をご用意しました。

名前は「Blue sparkle (ブルー スパークル=青いきらめき)」。ご本尊の十一面観音様にちなんだ十一個の珠、水晶に海を表すブルーのホタルガラスをあしらい、房は銀色にいたしました(ガラスは「波照間・与那国・琉球」)。

十一面観音様には、心身を危害から護るご利益があり、ブルーのカラーおよび水晶には、精神力を高め、傷ついた精神を癒やす働き、銀色には、魔よけの効能があります。

この根付を十一面観音様とつながる「印 (アンテナ)」として身に着けていただくことで、常に十一面観音様を感じていただけることと思います。

新型コロナウイルス禍が長く続く中、根付をお持ちいただく皆さまの心身の安楽と、災いから逃れられることを願い、誂えさせていただきます。

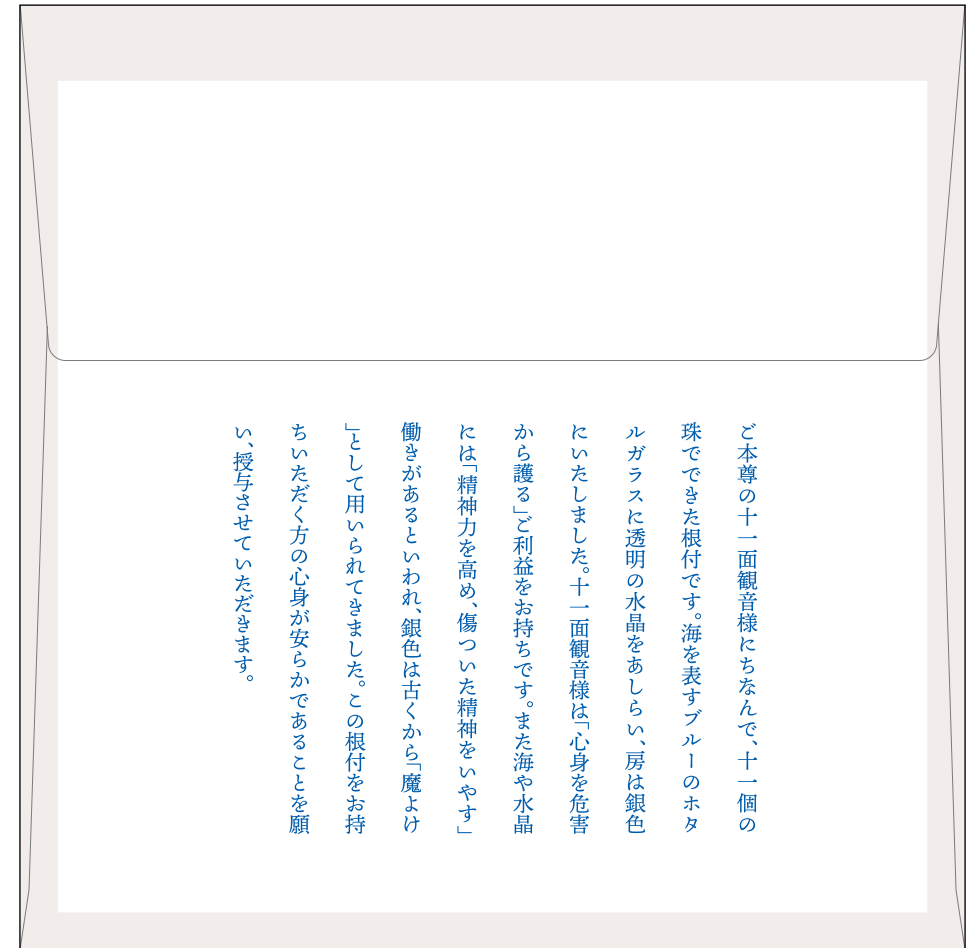


つながる印 (アンテナ) / 根付封筒

※画像はイメージです



根付封筒
表面



根付封筒
裏面

動画法話「コーヒー1杯のストーリー・心にふれる Buddhism (ブuddhism)」

7

10年ほど前は、ホームページ上で法話の動画をアップしておりましたが、多忙・多用の中、更新できないままになっておりましたところ「コロナ禍の今こそ動画を」とのご要望をいただき、再開する運びとなりました。

毎回5分程度の法話を考えておりますが、タイトルを「5分の法話」とするのは味気ない。そこで**5分の表現**について思案をしておりましたところ、友人から「コーヒーを適温で美味しく飲めるのは、淹れたて5分くらい」との情報をいただき、これにちなみ、「**コーヒー1杯のストーリー・心にふれる Buddhism (ブuddhism)**」というタイトルにさせていただきました。

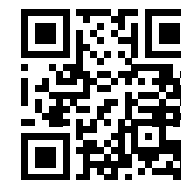
温かい飲み物を飲んだ時のように、心身の過緊張の緩みにつながれば幸いです。

またこれとは別に、ホームページにて、約6分間のメッセージムービーを公開いたしました。

こちらには、当寺のコンセプトや1300年の祈り、季節の様子と平城宮とのつながり、皆さまへのメッセージを収録しております。



海龍王寺 公式サイト ▶



海龍王寺 YouTube チャンネル ▶



※画像はイメージです



本堂解体修理

「“Let's move forward” project」の一環として、皆さまに海龍王寺を「共に前へ」進めていただきたいと思います。

現在当寺本堂は、廃仏毀釈や台風、2018年の北摂地震の影響、さらには経年劣化により、400年ぶりの解体修理を必要としております。

このような費用を求める際、寺や神社では昔から「勧進」が行われます。ただ私は常々、勧進の「分かる人には分かるが、伝わらない人には伝わらない」という部分を、大変残念に思っておりました。近年はクラウドファンディングも盛んに行われておりますが、この度は、クラウドファンディングでも、勧進でもない、**皆さまに明快にご理解いただけることを第一とし、年齢や立場を超えた「応援」**をお願いさせていただきたく存じます。

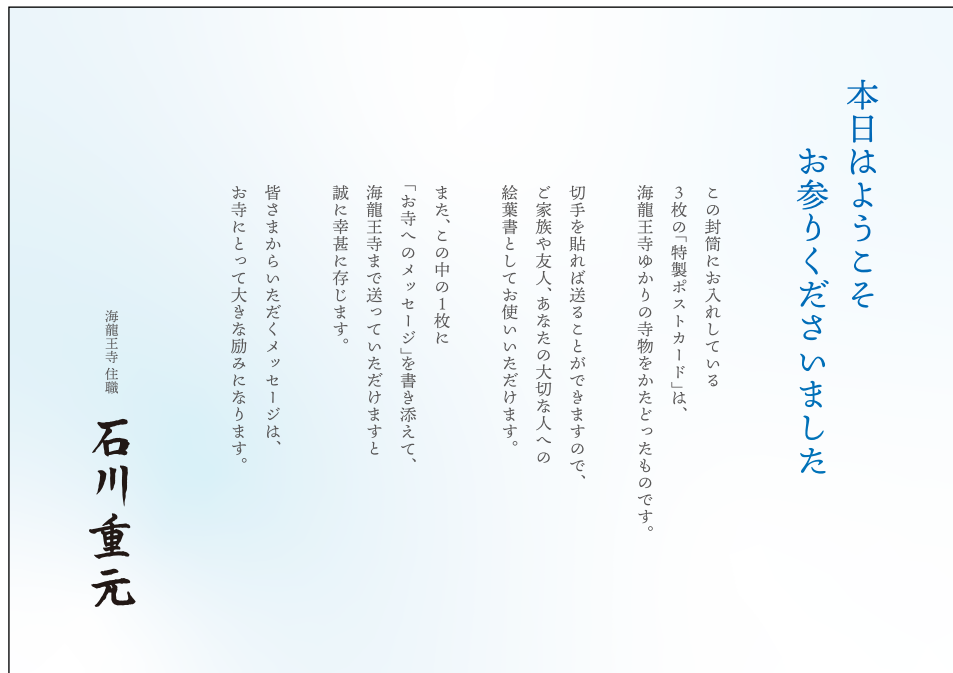
解体修理が叶いますと、離れたところにおられても、当寺とおつながりいただけるとともに、心(思い・魂・志)は百年・千年単位で残りますから、歴史が応援者の存在を認めることにもなります。

ぜひ、未来永劫お寺を支えていただく「ひとり」になっていただけますよう、お願い申し上げます。

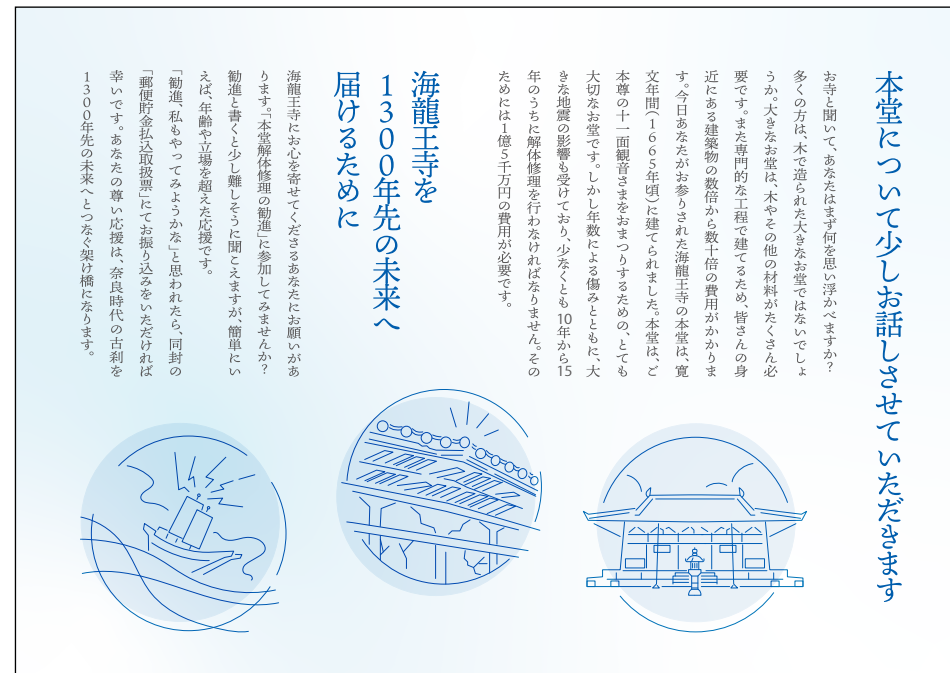


本堂解体修理／勸進の挨拶カードセット内容

※画像はイメージです



勸進の挨拶カード
表面



勸進の挨拶カード
裏面

口座の振込先

ゆうちょ銀行
記号番号 00960-0-212308
ゆうちょ銀行 ○九九(ゼロキュウキュウ) 支店
当座 0212308
そらとうみの会

※画像はイメージです



① 勸進封筒 表面

本堂解体修理／勸進の挨拶カードセット内容

※画像はイメージです



※画像はイメージです



奈良時代、海龍王寺では日本で最初に般若心経の写経が盛んに行われたので、般若心経の写経、本家本元の寺院と称されています。

この時、写された般若心経は海龍王寺の別称「隅寺」の名前を冠して「隅寺心経」と呼ばれており、奈良時代を代表する天平写経として多くの方々に珍重されてきました。

この由来にちなみ「令和の隅寺心経」を後世に遺してゆきたいと考えています。

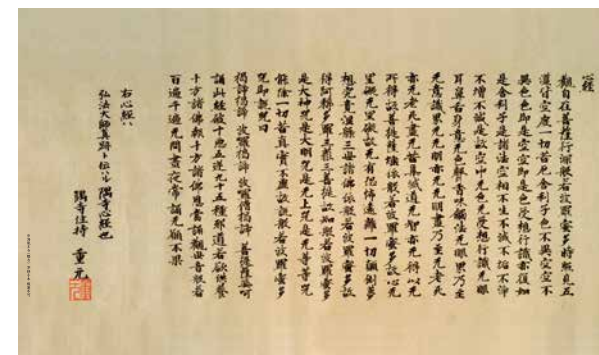
現在、「隅寺心経」と称する般若心経の写経は世間に多数存在しておりますが、正真正銘の隅寺心経は海龍王寺に伝わる心経のみで、弘法大師筆とも伝わります。

静寂な空間に座し、弘法大師筆と伝わる般若心経の筆跡をひたすらなぞることで、「現実の世界、周囲の環境が揺れ動いても、自身の心を揺れ動かさない修行」を体験していただき、現実世界の動揺に流されない心を養っていただきたいと思います。

また正真正銘の隅寺心経をお手本に写経をしていただくことで古代の人と心を重ねることで『令和の隅寺心経』として般若心経写経のルーツを後世に伝えるとともに、本堂を解体修理するための勧進(応援)写経にさせていただきます。



● 写経所



● 隅寺心経

1 紙 2,000 円 (お手本・料紙 1 紙)

納経をご希望の方は、同封いたします封筒にてお送りください。

お手本は頒布いたしておりますので、遠方の方は、下記よりお申し込みください。

折り返し、送料を含んだ料金をお知らせさせていただきます。

【お申し込み先】 海龍王寺

TEL 0742-33-5765 / FAX 0742-34-7443 / メール sorato-uminokai@kairyuouji.jp